



Capitol EMI speaker system

ユニットは2ウェイ構成で英国 EMI 社のものが採用されており、ネットワークはなく楕円のフルレンジユニットとトウイーターのローカットのみのシステム。キャビネットはアメリカで企画されたタイプで、とても薄い板で構成されたコーナータイプの箱に3本の金属製の脚が装備されている、裏側のバフは湾曲させた1枚板がネジで固定されていて箱がよく響く構造になっている

Retro-Future

古くて新しい もうひとつのヴィンテージオーディオ

ヴィンテージといえば、アルテックやタンノイなどが誌面に取り上げられる機会が多い。しかし、当時これらの老舗と肩を並べる、他の多くのブランドがあったことを知る人は少ないだろう。ピンテージ・ショップ「アトリエJe-tee」では、音質はもちろん、デザインにもこだわった「もうひとつのヴィンテージ」を数多く紹介している。本企画では、同店で販売されている製品を中心に、毎号テーマとなるブランドを取り上げている。今回はCapitol / EMIの20cmフルレンジ+5cmトウイーターのシステムとGE社のスピーカー「G-501」を紹介しよう。

第37回 Capitol-EMI / GE-General Electric

本文 / 田中伊佐資

製品解説 / 岡田圭司
(アトリエJe-tee代表)

撮影 / 小林幹彦(彩虹舎)

Capitol-EMI

Capitol 社は1942年に米国L.A.に設立されたレコード会社で、1950年代頃には西海岸で屈指のメジャーレーベルとなり、アメリカンポップスの黄金期を築き上げる。1956年に完成した本社ビルはアメリカミッドセンチュリーを代表する建物で、円盤を12個重ねてその上に棒が立っているような形でありCapitol Tower と呼ばれている。この円盤はレコード盤を、棒はレコード針を模していると言われる。60年代になると英国のメジャーレコード会社EMIの対米市場戦略により、その資本下になり Capitol EMI とする。



Retro-Future

古くて新しい もうひとつのピンテージオーディオ

Capitol-EMI / GE-General Electric



GE G-501 / General Electric

米国General Electric 社が50年代に生産していた小型ブックシェルフタイプで、ユニットは20cmフルレンジとコーンタイプのトウイーターの2ウェイでネットワークはなく、トウイーターのローカットのみで構成されている。箱は薄い板の密閉タイプでよく箱が響いて豊かな臨場感を引き出している

西海岸サウンドのキャピトルと 万能型のGE社、どちらも魅力

「今日はキャピトルで行きます」と岡田さんが早々に切り出した。最初からレーベルに的を絞って始めるのはかなり珍しいことだ。

キャピトルといったら誰？と不意に問われて、パツと出る答えは僕だったらシナトラかザ・バンド。そんな音楽がかかるのかなと思ったら、なんとキャピトル印のスピーカーだった。エンクロージャーの額にちゃんとロゴが入っている。

といっても後ろに回ると「MADE BY E・M・I」とマークが入っているからイギリス製スピーカーなのである。1955年に英EMIがキャピトルを買収したので、その関係で作られたのだろう。製品の型番が入っていないので、宣伝用や販促用などを目的とした非売品かもしれない。

さつそくアメリカ(という3人組)の代表曲「ベンチュラ・ハイウェイ」がリートの真空管セパレート・アンプでかかる。カラッときれいに乾いたサウンドが実に感動的だ。ソフトとハードが素晴らしくジャストミート。ウエストコースト・ロックの美点がたんまり出まくった録音だ(レーベルはキャピトルではなくワーナーにはありません)。

エンクロージャーは厚さ5mmと薄く、指ではじくとコーンと響く。その鳴りが生ギターやコーラスへ絶妙な実りをもたらしている。ピーターソンのお馴染み「ブリーズ・

リクエスト」はテキパキとスイングしていく。翳りのあるブルース感も希薄だが、この明るさもまたいい。

ボスコフスキーのモーツァルト「アイネ・クライネ」は日曜午前中に聴くような爽やかで優雅なクラシック。

トニー・ベネット&ダイアナ・クラールは2人の声がよく抜けている。含みを持った50年前のレトロ口感も皆無で、最新録音そのままの音だ。

もうひとつ用意されていたスピーカーが同じくアメリカ製で、ゼネラル・エレクトリックのG501。20cmフルレンジをネットワークなしのノーカットで鳴らし、高域を5cmトウイーターで伸ばしている。

ピーターソンは腰の据わったジャズになった。エンクロージャーのサイズ以上に低音が豊か。フルレンジをのびのびと活動させている様子だ。どんなソースが来ても間違いないコンサバティブな安定感がある。モーツァルトはお茶を飲みながら聴く午後3時のクラシックだろう。トーンが落ち着いている。

キャラクターが立ったキャピトル・スピーカー、万能型のGE。どちらをとるかはかなり難しい。総合的なスピーカーの実力はGEが上だろうが、キャピトルは西海岸のロックやフォークキーなシングルソングライターなどが、もうこれ以上ないほどはまる。個人的にはそれ系専用キャピトルが欲しいですね。